

長浜・米川 子どもたちが稚魚100匹放流

長浜市元浜町の曳山博物館と近くの米川で21日、子どもを対象にビワマスの稚魚約100匹を放流するイベントがあった。子どもたちは数年後の再会を願って稚魚を放った。

(足立優作)

ビワマスさん また会おうね

市の中心市街地を流れる米川にビワマスの姿を戻そうと、長浜まちなか地域づくり連合会が企画。ビワマスの稚魚が入った水槽やバケツを持った子どもたちが、博物館の横を流れる米川に放流した。大阪府から家族と観光に訪れていた中田遥香ちゃん(5)は放流後「お魚とバイバイした。(稚魚は)かわいかった」と話した。



ビワマスの稚魚を放流する子どもたち=長浜市元浜町の米川で

まちなか地域づくり連が企画

い、子どもたちが未来の自分に向けて手紙を書く、「タイムカプセル郵便」を実施。手紙は2029年3月に自宅へ配達される予定だ。県立琵琶湖博物館の藤岡康弘特別研究員による講演もあった。

連合会によると、ビワマスには生まれた川に戻る「母川回帰」の習性があるといい、3〜4年後には産卵のため米川に戻ってくる可能性があるという。

連合会の田中省吾さん(72)は「昔、米川にいたビワマスだが、高度経済成長期以降、生息が途絶えてしまった」と背景を語る一方、今月には米川で2匹の稚魚が見つかった。「現在は少しずつ姿が戻りつつある。川をさらにきれいにすることでビワマスを再び生息させることも可能だ」と話した。



ビワマスの生態について学ぶ参加者ら=長浜市元浜町の曳山博物館で